

和泉市におけるSOSの出し方及び受け止め方に関する取組み状況

1. 基本方針

いじめを含む児童生徒の悩みや困難を「個人の問題」ではなく「環境との関係」で捉え、学校組織全体で未然防止・早期発見・早期対応に取り組む体制づくりを推進する。

2. 教職員の対応力向上及び児童生徒の援助希求スキルの向上に向けた取組み（研修等の実施）

複雑化する児童生徒の課題に対し、個々の教職員の抱え込みを防ぎ、組織的な対応力を高めるため、あるいは適切に援助希求する具体的な方法について、専門家による実践的な研修や授業を継続的に実施する。

(1) 自傷行為・自殺リスクへの組織的対応研修

自傷行為や「死にたい」という訴えに直面した際、チームで対応するための具体的なスキルの習得

- ・テーマ：チームで取り組む自傷行為の対応とこころの成長
- ・取組みのポイント：

→リスクアセスメントの徹底…「自傷」と「自殺」の意図の違いを医学的見地から学び、ワークシートを用いて客観的にリスクを評価

→組織対応のシミュレーション…事例検討を通じて、「傷の手当て＝心の手当て」という基本姿勢や、保護者へ伝える判断など、学校組織として一致した対応方針を確認

(2) 援助希求（SOS）を受け止める土壌づくり研修

こどもがSOSを出せない背景には、大人や社会など、受け止める側の課題もあるという視点から、教職員の「聴く力」「つなぐ力」の強化

- ・テーマ：こどもの援助希求（SOS）をいかに受け止めるか
- ・取組のポイント：

→援助希求の双方向性…言えるスキルの育成だけでなく、それを受け止める学校・社会の環境整備が不可欠であることを再確認

→信頼関係の構築…困難を抱えるこどもほどSOSが出しにくい現状を踏まえ、日常的な関わりの中で信頼できる大人として認知されるための姿勢を確認

(3) SCによるSOSの出し方・受け方に関する研修及び授業

各校の実態に応じて、様々な機会や場面を設定し、教職員による受け取りの方法や環境設定の具体、児童生徒による援助希求の具体的な実践方法を確認

- ・SCによる全校オンデマンド授業
- ・SCによる各クラスでの授業に加えカウンセリングの実施
- ・SCによる教職員研修を実施し、各教職員が授業を展開

3. 課題について

- ・研修で得た知識を各学校の現場対応につなげ、どう定着させるか
- ・SOSの出し方及び受け止め方の変容をどのような指標で見取るか

4. 今後の方向性や取組みについて

- ・SOSの出し方・受け止め方に関する児童生徒への取組みの推進：
研修や授業を通じて、援助希求として声を上げる方法の更なる強化や、友だち等のSOSに気づいた際の対処法を学ぶ機会の検討
- ・教職員のSOSの受け止めスキルの把握と向上
指標を活用したSOSの受け止めに係る実態把握と継続的なスキル向上に向けた取組みの検討